



作詞者・作曲者・編曲者・歌手のマッチング：
「ザ・ベストテン」創世記の事例から

神戸大学 経済経営研究所
教授 下村 研一

経済学でここ 20 年大きく栄えた研究分野に、マッチングがある。元々はアメリカにおける大学選択と結婚について、受験生と大学、男性と女性をどのようなルールで引き合わせたらよいかという問題意識から研究が始まった。合格者決定後に A 大学が「しまった！B さんを取ればよかった」、B さんが「しまった！A 大学を受ければよかった」という「あとの祭りの相思相愛」の発覚が起こらないようにするメカニズムを、デビッド・ゲール(1921-2008)とロイド・シャプレー (1923-2016) という数理経済学者が発見したのである (Gale and Shapley, 1962)。このゲールとシャプレーの論文はどのようにして書かれたのであろうか。アルヴィン・ロス (米スタンフォード大学教授)¹が学術誌「ネイチャー」に載せたシャプレーの追悼文 (Roth, 2016) によると、きっかけはゲールが結婚に関する問題を提示し、シャプレーが解答したことからは始まっている。つまり、名作誕生の背景にも絶妙の共同作業者のマッチングがあった。ただ共同論文は大学選択や結婚と違い、複数のパートナーとの提携により複数の論文を書くことが一般的である。ゲールとシャプレーもこのペアでの共作は本作のみで、それぞれ他の研究者との共同論文も存在する。つまり、たとえプロジェクトの進行中に「あとの祭りの相思相愛」が発覚しても、新たなペア、あるいはチームを組んで別の論文を書くことは何の問題もない。共同研究は、複数の提携に所属し掛け持ちで仕事をすることが許される「緩い」マッチングである。

このようなマッチングの事例として、「歌」を考える。対象となる歌は、かつて TBS 系列で放送された「ザ・ベストテン」で 1978 年 1 月 19 日から 1980 年 12 月 11 日までの 3 年間 150 回で 10 位以内にランクインした延べ 1500 曲の楽曲である (山田, 2012, pp.272-294)²。使用したデータはこの延べ 1500 曲の各曲のランクインの日付、作詞者名、作曲者名、編曲者名、歌手名の 5 要素である。このデータに基づき、歌を作詞者、作曲者、編曲者、歌手のマッチングの産物と解釈し、日付を基に時系列と総計でその特徴を探る。なぜ対象がこの 3 年なのかだが、78 年 1 月に番組開始後、81 年から 82 年にかけて起こった大規模な

¹ シャプレーはアルヴィン・ロスと、マッチングの研究でノーベル経済学賞を受賞した。

² 長文を避けるため、本文中に記すべき人物の敬称を省略、楽曲の曲名を割愛した事にお許しを請う。なお、登場する音楽作家や歌手で調査期間中の芸名が複数ある場合は一つを選択し統一した。

変革の前にあたる「創世記」の記録に関心を持ったからである。実は既に80年にさまざまな変化が重なり、定期的にランクインする歌手の顔ぶれが見える形で、楽曲の作者（特に作曲者）が見えない形で前年から入れ替わった。中でも山口百恵の引退、同年デビューした田原俊彦と松田聖子の活躍、そして同年最終放送回の近藤真彦の登場は、その象徴的な出来事であった。81年はこの3人の活躍に加え、寺尾聰、山本譲二がそれぞれ連続1位、連続ランクインの最長記録を作る。その後82年中森明菜、84年チェッカーズが加わり、85年4月松田聖子の一時休業と久米宏の司会降板まで3年間、番組は新たな安定期を迎える。

久米はこの番組を振り返って「報道番組」であったと言っている。登場する曲名・歌手名とともに順位と得点が記録にも残る。毎週最後の記念撮影でボードに曲名・歌手名が載るのは10曲。諸般の事情で歌唱されなかった曲も多かったが、ランクインすれば順位に関係なく、ほぼ同じ時間が与えられる。歌手と司会者黒柳徹子・久米とのトークと歌唱が放送される10位以内の曲と3秒程の歌唱の映像が流れる11位から20位の曲との差は、試験の合格者と不合格者のように歴然としている。公共の電波で全国に配信される歌という作品が、歌手だけでなく、作詞者、作曲者、そして編曲者によるチームの共同制作であることを考えれば、10位圏外と圏内はチームの死活問題と言えよう。今回のコラムでは、圏内に入った楽曲の制作に、作詞者、作曲者、編曲者の組み合わせがどれだけ影響したかをいくつかの基準を定めて評価し、その3年間の貢献をデータから分析してみる³。

なお、このコラムで伝えたいことに、作品のランクイン回数が多い「作詞者、作曲者、編曲者」の組み合わせで、その協業チームの4人目である歌手がほぼ特定化されることがある⁴。よって歌手にとってランクイン回数を増やすための一つの手段は、「鉄板の三作家」と巡り会うことであると言える。作詞者、作曲者に比べると、どうしても編曲者は目立たない存在だが、イントロは編曲者が作る。歌のイントロは論文のイントロと同じで作品全体の魂が凝縮されている⁵。歌はまさに作家陣と表現者（歌手）のマッチングの成果である。その結論は表9に示されている。本文を読みつつ当時の流行のイメージが湧かなかっただら、多士済済の有名歌手の名前が出てくる表9を先に見てから読むと多少読み易くなるかも知れない。

³ 本稿の表の「点数」は基本的に「ランクイン回数」である。1回の番組で1曲ランクインすれば「1点」、2曲ランクインすれば「2点」である。小数は共同作業の場合、人数で割った値である。たとえば作曲が2名の共同であれば各作曲者はそれぞれ「0.5点」、4名であれば「0.25点」とした。日本語詞と英語詞がある場合も各作詞者に「0.5点」とした。編曲者が1グループと1名、または2グループの場合は、各チームと各編曲者に「0.5点」とした。なお「シェア」は全体を100としたとき該当者（グループ）が占める割合（%）、†がついた人名は故人を表す。

⁴ 塚山（2016）は、1967年から1990年までを3期間に分け、二人の業界人が音楽制作で直接または間接に関わった膨大な数の関係者の包括的なネットワークを作成した学術論文である。

⁵ 松本隆氏が最近の歌におけるイントロ不要の風潮に警鐘を鳴らしている（松本、2022）。日本を代表する作詞家による編曲重視の提言は重みがある。イントロ・間奏・エンディングは日本の文化だと筆者は思う。

表1について、作詞者、作曲者、編曲者の個別の貢献を第1期（150回の最初の50回、1978年）から見る。阿久悠の貢献は瞠目に値する。「シェア29.4」は全体のほぼ30%、つまり「毎週10曲中3曲」が阿久の作詞であることを意味する。この時期「毎週10曲中1曲以上」ランクインしているのが、阿久に加え作詞で阿木燿子、作曲で都倉俊一、大野克夫、編曲で船山基紀、都倉俊一、萩田光雄である。この時期の阿久・都倉、阿久・大野のペアがそれぞれピンク・レディー、沢田研二の楽曲を担当したことは殊に有名である。阿木・宇崎竜童夫妻は二人での仕事に限らず、他の作詞家・作曲家とも楽曲を作っている。ただこの3年間に限っては、宇崎のランクインは阿木の詞のみである。シンガーソングライター（谷村新司、世良公則、中島みゆき、渡辺真知子、堀内孝雄、原田真二）と所属するグループが3部門で貢献する中、この時期はキャンディーズと郷ひろみ・樹木希林の楽曲の作曲と編曲の両方を担当した穂口雄右の活躍が目立つ。編曲では船山と萩田に加え、石川鷹彦の貢献が目立つ。石川はシンガーソングライターの楽曲（当時の呼び方だとニューミュージック）のアレンジを専門とし、あとの二人はジャンルを問わないことがデータから見て取れる（表5、6参照）。

表1：第1回（78年1月19日）から第50回（78年12月28日）の楽曲作家の記録

順位	作詞	点数	シェア (%)	順位	作曲	点数	シェア (%)	順位	編曲	点数	シェア (%)
1	阿久悠†	147	29.4	1	都倉俊一	71	14.2	1	船山基紀	91	18.2
2	阿木燿子	66	13.2	2	大野克夫	66	13.2	2	都倉俊一	62	12.4
3	谷村新司	43	8.6	3	宇崎竜童	41	8.2	3	萩田光雄	56	11.2
4	松本隆	37	7.4	4	世良公則	35	7.0	4	石川鷹彦	46	9.2
5	世良公則	35	7.0	5	穂口雄右	32	6.4	5	ツイスト	35	7.0
6	山川啓介†	17	3.4	6	堀内孝雄	29	5.8	6	穂口雄右	32	6.4
7	中島みゆき	16	3.2	7	馬飼野康二	28	5.6	7	馬飼野康二	28	5.6
8	島武実†	16	3.2	8	筒美京平†	26	5.2	8	原田真二	19.5	3.9
9	渡辺真知子	13	2.6	9	平尾昌晃†	22	4.4	9	筒美京平†	14	2.8
10	竜真知子	12	2.4	9	原田真二	22	4.4	10	クニ河内	11	2.2
				9	渡辺真知子	22	4.4				
計		402	80.4			372	74.4			394.5	78.9

表2について、第2期（150回の中間の50回、1979年）に「毎週10曲中1曲以上」ランクインしているのが、作詞で阿木と阿久、作曲でタケカワユキヒデ、編曲でミッキー吉野と萩田である。この時期の阿木の貢献は、作曲・編曲の宇崎・萩田、宇崎・川口真と共に山口百恵への楽曲の制作だけでなく、筒美（作曲・編曲）と共にジュディ・オングへ、平尾昌晃・鈴木茂と共に水谷豊への楽曲提供で非常に印象的なものとなった。シンガーソングライターでは、第1期に活躍した世良公則・谷村新司に加え、錚々たる面々（桑田佳祐、さだまさ

し、松山千春、タケカワユキヒデ、八神純子、ミッキー吉野)が3部門で名前を連ねている。彼らが制作した楽曲は自身または所属グループ(ツイスト、アリス、ゴダイゴ、サザンオールスターズ)が歌ってランクインした。奈良橋陽子は、作曲をタケカワ、編曲を吉野が担当したゴダイゴの全楽曲の英語詞を作詞し、サビはすべて日本語詞に引用された。Jacques Morali は、西城秀樹とピンク・レディーが日本語歌詞で歌った外国曲の作曲者である。大村雅朗は、この期間八神純子と岸田智史の曲の編曲により活躍した(表6参照)。

表2: 第51回(79年1月11日)から第100回(79年12月20日)の楽曲作家の記録

順位	作詞	点数	シェア	順位	作曲	点数	シェア	順位	編曲	点数	シェア
1	阿木耀子	61	12.2	1	タケカワ ユキヒデ	54	10.8	1	ミッキー 吉野	65	13.0
2	阿久悠†	54	10.8	2	筒美京平†	48	9.6	2	萩田光雄	47	9.4
3	桑田佳祐	34	6.8	3	桑田佳祐	34	6.8	3	サザンオー ルスターズ	35	7.0
4	世良公則	32	6.4	4	宇崎竜童	32	6.4	4	大村雅朗†	34	6.8
4	奈良橋陽子	32	6.4	4	世良公則	32	6.4	5	筒美京平†	25	5.0
6	谷村新司	30	6	6	さだまさし	25	5.0	6	石川鷹彦	22	4.4
7	さだまさし	25	5	7	谷村新司	23	4.6	6	ツイスト	22	4.4
8	山川啓介†	21	4.2	8	大野克夫	21	4.2	8	船山基紀	17	3.4
9	三浦徳子	19	3.8	9	Jacques Morali†	20	4.0	9	川口真†	17	3.4
10	松山千春	18	3.6	10	都倉俊一	18	3.6	10	大谷和夫†	14	2.8
				10	松山千春	18	3.6				
				10	八神純子	18	3.6				
計		326	65.2			307	61.4			298	59.6

表3について、第3期(150回の終盤の50回、1週を除き1980年)に「毎週10曲中1曲以上」ランクインしているのは、作詞・作曲で該当者はなく、編曲で萩田と船山が残る。この時期、第1期2期で活躍した相当数の作詞者・作曲者がランクインしておらず、編曲者と歌手を加えた新しい「チーム」に押し出された形が見える。第1期2期には名前がなかった作詞者・作曲者・編曲者のたかたかし・木村好夫・京健輔は五木ひろしと、糸井重里・加瀬邦彦・後藤次利は沢田研二と、湯川れい子・井上大輔(作曲・編曲)はシャネルズと、水谷啓二・もんたよしのり・松井忠重はもんた&ブラザーズと、小田和正(作詞・作曲)・オフコースは自作自演でチームとして活躍し、個別の貢献はデータで判別できない。作曲の山下三智夫もクリスタルキングのメンバーかつ楽曲の作曲者として新たに登場し活躍した。

表3：第101回（79年12月27日）から第150回（80年12月11日）の楽曲作家の記録

順位	作詞	点数	シェア	順位	作曲	点数	シェア	順位	編曲	点数	シェア
1	阿木耀子	43	8.6	1	木村好夫†	32	6.4	1	萩田光雄	70	11.5
2	三浦徳子	32	6.4	2	宇崎竜童	29	5.8	2	船山基紀	48	10.4
3	たかたかし	32	6.4	3	山下三智夫	27	5.4	3	大村雅朗†	41	5.5
4	谷村新司	25	5.0	3	堀内孝雄	24	4.8	4	京健輔	32	5.3
5	山川啓介†	24	4.8	5	網倉一也	24	4.8	5	松井忠重	21.5	4.8
6	糸井重里	18	3.6	6	小田裕一郎†	19	3.8	6	石川鷹彦	18	4.5
6	湯川れい子	18	3.6	7	加瀬邦彦†	18	3.6	6	後藤次利	18	4.0
8	水谷啓二	17	3.4	7	井上大輔†	18	3.6	6	井上大輔†	18	2.8
9	小田和正	16	3.2	9	もんたよしのり	17	3.4	9	オフコース	16	2.6
10	桑田佳祐	15	3.0	10	小田和正	16	3.2	10	瀬尾一三	15	2.6
計		240	48.0			224	44.8			297.5	59.5

表4について、表4は3期間の集計結果である。これが調整された延べランクイン曲数による作詞・作曲・編曲各部門の十傑となる。阿久、阿木、萩田、船山は150週平均して毎週1曲はランクインさせている。楽曲作家の名前が語る「ザ・ベストテン」創世記の姿である。

表4：第1回（78年1月19日）から第150回（80年12月11日）の楽曲作家の記録

順位	作詞	点数	シェア	順位	作曲	点数	シェア	順位	編曲	点数	シェア
1	阿久悠†	213	14.20	1	宇崎竜童	102	6.80	1	萩田光雄	173	11.53
2	阿木耀子	170	11.33	2	都倉俊一	91	6.07	2	船山基紀	156	10.40
3	谷村新司	98	6.53	3	大野克夫	87	5.80	3	石川鷹彦	86	5.73
4	世良公則	72	4.80	4	筒美京平†	83	5.53	4	大村雅朗†	82	5.47
5	山川啓介†	62	4.13	5	世良公則	72	4.80	5	都倉俊一	80	5.33
6	桑田佳祐	60	4.00	6	堀内孝雄	60	4.00	6	ミッキー 吉野	70	4.67
7	三浦徳子	58	3.87	7	桑田佳祐	60	4.00	7	ツイスト	60.5	4.03
8	松本隆	53	3.53	8	タケカワ ユキヒデ	59	3.93	8	サザンオー ルスターズ	42	2.80
9	松山千春	38	2.53	9	谷村新司	49	3.27	9	筒美京平†	39	2.60
10	たかたかし	36	2.40	10	馬飼野康二	39	2.60	9	馬飼野康二	39	2.60
計		860	57.3			702	46.8			827.5	55.1

表5について、3年間のデータを見ると、作曲者と編曲者のペアのあり方が注目される。作曲者の側から見て、編曲者との組み方は表5から、以下の3パターンに分かれる。

1. 一人二役：作曲者自身、または自身が属するグループが編曲（世良，桑田，馬飼野）。
2. マッチング：一名または数名の決まった編曲者と適宜協業（宇崎，タケカワ，堀内，木村）
3. フレキシブル：作曲者自身の編曲か、別の編曲者と協業するか（都倉，大野，筒美）。

この意思決定を誰がどのように行ったかはデータから読み取れないが、3パターンがほぼ同数な事は興味深い。一方、3年間の編曲における上位4名は、萩田，船山，石川，大村である（表4参照）。4人の編曲者の側から見た協業作曲者の内訳は表6を参照されたい⁶。

表5：第1回（1978年1月19日）から第150回（1980年12月11日）にランクインした楽曲の作曲者・編曲者ペアの上位10組の記録

	作曲	編曲	点数	シェア	同一作曲者と組んだ他の編曲者（共有した点数）
1	宇崎竜童	萩田光雄	84	5.60	川口真十（9）大村雅朗十（9）
2	都倉俊一	都倉俊一	80	5.33	船山基紀（9）萩田光雄（2）
3	世良公則	ツイスト	66.25	4.42	なし
4	タケカワユキヒデ	ミッキー吉野	59	3.93	なし
5	堀内孝雄	石川鷹彦	54	3.60	萩田光雄（6）
6	大野克夫	船山基紀	53	3.53	大野克夫（11）萩田光雄（9）水谷公生（8）宮川泰十（6）
7	桑田佳祐	サザンオール スターズ	44.5	2.97	松井忠重（13）
8	筒美京平十	筒美京平十	39	2.60	萩田光雄（12）桑名正博十 & Tear Drops・戸塚修（10） 水谷公生（9）高田弘（7）船山基紀（6）
8	馬飼野康二	馬飼野康二	39	2.60	なし
10	木村好夫十	京健輔	36	2.40	なし
			554.75	37.98	

表6：ランクイン楽曲数が上位の編曲者、およびその編曲者と協業作品がある作曲者の記録

	編曲者	点数	協業作品がある作曲者（点数の配分）
1	萩田光雄	173	宇崎竜童（84）網倉一也（34）筒美京平十（12）久保田早紀（12）大野克夫（9）南佳孝（8） 堀内孝雄（6）なかにし礼十（4）都倉俊一（2）つのだひろ（2）
2	船山基紀	156	大野克夫（53）渡辺真知子（33）山下三智夫（15）都倉俊一（9）筒美京平十（6）平尾昌晃十（7） 宮下智（10）中島みゆき（5）円広志（6）五輪真弓（6）水谷公生（4）三木たかし十（2）
3	石川鷹彦	86	堀内孝雄（54）谷村新司（23）南こうせつ（7）さとう宗幸（2）
4	大村雅朗十	82	八神純子（26）R. Kennedy十・J. Conrad十・D. Foster・八神純子（13）岸田智史（13）小田裕一郎十（11） 馬場章幸（ばんばひろふみ）（10）宇崎竜童（9）

⁶ この4名編曲の作品名（ランクイン回数）と歌手名一覧を【付録1】とした。参考になれば幸いである。

表7について、作曲者と編曲者のペアと同等以上に興味深いのが、作曲者と作詞者のペアである。作曲者の側から見て、作詞者との組み合わせは表7から以下の3パターンに分かれる。

1. 一人二役：作曲者自身が作詞（世良，桑田，谷村，さだ）
2. マッチング：一名または数名の決まった作詞者と適宜協業（宇崎，大野，木村）
3. フレキシブル：さまざまな作詞者と適宜協業（都倉，堀内，タケカワ）。

この3年間作詞で高い点数を獲得した上位8名が、阿久，阿木，谷村，世良，山川，桑田，三浦，松本である（表4参照）。なお、この中の5人の専業作詞家（阿久，阿木，山川，三浦，松本）の側から見た協業作曲者の内訳は表8の通りである。

表7：第1回から第150回にランクインした楽曲の作曲者・作詞者ペアの上位10組の記録

	作曲	作詞	点数	シェア	同一作曲者と組んだ他の作詞者（共有した点数）
1	宇崎竜童	阿木燿子	102	6.80	なし
2	大野克夫	阿久悠†	79	5.27	東海林良（8）
3	世良公則	世良公則	72	4.80	なし
3	都倉俊一	阿久悠†	65	4.33	島武実†（9）阿木燿子（9）松本隆（4）竜真知子（4）
5	桑田佳祐	桑田佳祐	60	4.00	なし
6	堀内孝雄	谷村新司	49	3.27	松本隆（6）山川啓介†（5）
7	谷村新司	谷村新司	49	3.27	なし
8	木村好夫†	たかたかし	36	2.40	なし
9	さだまさし	さだまさし	35	2.33	なし
10	タケカワユキヒデ	奈良橋陽子 （英作詞）	34.5	2.30	山上路夫（10）山川啓介†（9）伊藤アキラ†（5.5）
			581.5	38.77	

表8：ランクイン楽曲数が上位の作詞者，およびその作詞者と協業作品がある作曲者の記録

	作詞者	点数	表8に登場した作曲者以外で共同作品がある作曲者（点数の配分）
1	阿久悠†	213	大野克夫（79）都倉俊一（65）馬飼野康二（25）筒美京平†（15）穂口雄右（12）鈴木キサブロー（8）ミッキー吉野（5）浜圭介（4）
2	阿木燿子	170	宇崎竜童（102）筒美京平†（15）平尾昌晃†（12）都倉俊一（9）穂口雄右（13）網倉一也（12）南こうせつ（7）
4	山川啓介†	62	筒美京平†（28）矢沢永吉（9）タケカワユキヒデ（9）S. Wonder（9）堀内孝雄（5）馬飼野康二（5）大野雄二（1）八神純子（1）
5	三浦徳子	58	八神純子（21）小田裕一郎†（19）R. Kennedy†・J. Conrad†・D. Foster・八神純子（13）馬飼野康二（5）
6	松本隆	53	原田真二（22）筒美京平†（16）平尾昌晃†（5）都倉俊一（4）

表9について、最後に「作詞者・作曲者・編曲者」のトリオを一単位として、「ザ・ベストテン」創世記にランクインした回数の上位11組(10位は2組同点)を算出したものが表9である。これらの組み合わせは2つのカテゴリーに分かれている。1つは作詞・作曲・編曲に3名あるいは2名の分業が必要で、リピーター的な協業者を互いに複数名持っている者たちのトリオあるいはペアである。もう1つは自作自演の歌手を含む不動の組み合わせで作詞・作曲・編曲を行う者たちである。筒美京平は生前に前者を「職業音楽家」、後者を「芸術家」と呼んだ。そのどちらかの形をとった当時の競争の「勝ち組」の一覧が表9にある。それらの組み合わせの顔あるいは象徴ともいべき存在が楽曲を表現した歌手である。表を見ると作家陣の顔ぶれで歌手をほぼ特定できると言えよう⁷。「人気歌手の歌を作ったのだから、これらの作家陣は成功して当然」という考えは論理的に正しくない。ここに名前のある大歌手でも、毎回必ずしも同じ作家陣と組んでいる訳ではなく、豪華絢爛の別の作家陣が作った楽曲でランクインを逃した記録も実際残っている。「ザ・ベストテン」は毎週音楽で貢献したマッチング十組の偉業を、歌手をその代表として表彰し記念撮影をする番組でもあった。

なお、データを調べる中で、関係者に故人が認識以上に多いことに気づいた。彼ら彼女らが協業者と残してくれた歌という遺産を忘れない事、聴き続ける事で敬意を表したい。〈了〉

表9：第1回から第150回にランクインした楽曲の作詞者・作曲者・編曲者トリオの上位10組、および楽曲を表現した歌手の記録

	作詞	作曲	編曲	点数	シェア	楽曲を表現した歌手(点数の配分)
1	阿木耀子	宇崎竜童	萩田光雄	84	5.60	山口百恵(79), 郷ひろみ(5)
2	世良公則	世良公則	ツイスト	68.17	4.55	ツイスト(68.17)
3	阿久悠†	都倉俊一	都倉俊一	65	4.33	ピンク・レディー(65)
4	阿久悠†	大野克夫	船山基紀	53	3.53	沢田研二(53)
5	奈良橋陽子	タケカワユキヒデ	ミッキー吉野	50.83	3.39	ゴダイゴ(48.33), タケカワユキヒデ(2.5)
6	谷村新司	堀内孝雄	石川鷹彦	49	3.37	アリス(37), 堀内孝雄(12)
7	桑田佳祐	桑田佳祐	サザンオールスターズ	44	2.93	サザンオールスターズ(44)
8	たかたかし	木村好夫†	京健輔	36	2.40	五木ひろし(36)
9	三浦徳子	八神純子	大村雅朗†	34.75	2.32	八神純子(34.75)
10	阿久悠†	馬飼野康二	馬飼野康二	25	1.67	西城秀樹†(25)
10	松山千春	松山千春	清須邦義	25	1.67	松山千春(25)
計				534.75	35.65	

⁷ 活躍した歌手の一覧(全期間, 1期, 2期, 3期)を【付録2】とした。参考になれば幸いである。

参考文献

Gale, David and Lloyd S. Shapley (1962) “College admissions and the stability of marriage,” *American Mathematical Monthly* 69: 9-15.

Roth, Alvin E. (2016) “Lloyd Shapley (1923-2016),” *Nature* 532:178

永山晋 (2016) 「クリエイターの価値創造を促すコミュニティのダイナミックス-日本の音楽産業の事例研究-」 *経済論叢* 190 : 39-59

松本隆 (2022) 「書きかけの… (2) : 時間の流れごと味わう」 *朝日新聞* 2022年4月9日

山田修爾 (2012) 『ザ・ベストテン』 新潮社

【付録1】 第1回から第150回までの総ランクイン楽曲数上位の編曲者4名の延べ曲数（ランクイン回数）、および楽曲名（楽曲別ランクイン回数）/歌手名

	編曲者	曲数	編曲した楽曲名（ランクイン回数）/歌手名
1	萩田光雄	173	禁猟区 (5) マイレディー (14) セクシーユウ (8) タプー (禁じられた愛) (8) How many いい顔 (12) 若さのカタルシス (2) /以上6曲, 郷ひろみ; 乙女座宮 (10) プレイバック Part2 (15) 絶体絶命 (11) 美サイレント (10) 愛の嵐 (13) 愛染橋 (6) ロックンロール・ウィドウ (10) さよならの向う側 (10) /以上8曲, 山口百恵; ブーツをぬいで朝食を(9) 勇気があれば (12) /以上2曲, 西城秀樹†; 異邦人 (12) /久保田早紀; 時には娼婦のように/黒沢年男 (4); 泣き虫 (2) /清水健太郎
2	船山基紀	156	憎みきれないろくでなし (2) サムライ (15), ダーリング (13) LOVE (抱きしめたい) (13) OH! ギャル (10) /以上5曲, 沢田研二; バイブレーション (9) /郷ひろみ; 飛んでイスタンブール (6) /庄野真代; 愛よ甦れ (7) /野口五郎; 迷い道 (9) かもめが翔んだ日 (9) ブルー (4) 唇よ、熱く君を語れ (11) /以上4曲, 渡辺真知子; ハッとして! Good (10) /田原俊彦; 大都会 (15) /クリスタルキング; しあわせ芝居 (5) /桜田淳子; 夢想花 (6) /円広志; 恋人よ (6) /五輪真弓; エンドレスサマー (3) /西城秀樹†; ヤングボーイ (1) /河合奈保子; 恋の綱わたり (2) /中村晃子
3	石川鷹彦	86	冬の稲妻 (6) 涙の誓い (9) ジョニーの子守唄 (11) チャンピオン (14) 夢去りし街角 (7) 秋止符 (8) 狂った果実 (5) /以上7曲, アリス; 君のひとみは10000ボルト (12) /堀内孝雄; 南回帰線 (5) /滝ともはる・堀内孝雄; 夢一夜 (7) /南こうせつ; 青葉城恋唄 (2) /さとう宗幸
4	大村雅朗	82	みずいろの雨 (9), 思い出のスクリーン (8), ポーラースター (8), Mr.ブルー (1) パープルタウン (13) /以上5曲, 八神純子; きみの朝 (13) /岸田智史; 青い珊瑚礁 (11) /松田聖子; SACHIKO (10) /ばんばひろふみ; 謝肉祭 (9) /山口百恵

【付録2】第1回から第150回まで、第1回から第50回まで、第51回から第100回まで、第101回から第150回までの延べ曲数（ランクイン回数）の上位12名の歌手の記録

第1回から第150回まで (1500曲中)10位以内曲数			第1回から第50回まで (500曲中)10位以内曲数			第51回から第100回まで (500曲中)10位以内曲数			第101回から第150回まで (500曲中)10位以内曲数		
順位	歌手	曲数	順位	歌手	曲数	順位	歌手	曲数	順位	歌手	曲数
1	山口百恵	122	1	沢田研二	49	1	ゴダイゴ	51	1	五木ひろし	41
2	西城秀樹†	117	2	ピンク・レディー	47	2	西城秀樹†	42	2	山口百恵	35
3	沢田研二	96	3	西城秀樹†	45	3	山口百恵	42	3	郷ひろみ	34
4	郷ひろみ	85	3	山口百恵	45	4	サザンオールスターズ	34	4	西城秀樹†	30
5	ツイスト	72	5	ツイスト	35	5	ツイスト	32	5	クリスタルキング	27
6	ピンク・レディー	71	5	郷ひろみ	27	6	さだまさし	25	6	沢田研二	26
7	アリス	60	5	アリス	27	7	ピンク・レディー	24	6	田原俊彦	24
8	ゴダイゴ	56	8	野口五郎	22	8	沢田研二	21	6	もんた&ブラザーズ	20
9	サザンオールスターズ	47	8	渡辺真知子	22	9	アリス	20	9	松田聖子	19
10	五木ひろし	45	8	原田真二	22	10	郷ひろみ	19	10	シャネルズ	18
11	八神純子	39	11	キャンディーズ	20	11	松山千春	18	11	オフコース	16
12	松山千春	38	12	堀内孝雄	12	11	八神純子	18	12	八神純子	14
	計	849		計	373		計	346		計	305
	シェア	56.6		シェア	74.6		シェア	69.2		シェア	61.0

* 西城秀樹, キャンディーズの田中好子, ゴダイゴの浅野孝巳は故人 (2022年4月現在)